



平成 29 年 9 月 1 日

各 位

会 社 名 株式会社 AKIBA ホールディングス
代表者名 代表取締役社長 下津 弘享
(JASDAQ・コード番号 6840)
問合せ先 取締役管理本部長 五十嵐 英
(TEL. 03-3541-5068)

**特別損失の計上並びに
平成 30 年 3 月期第 2 四半期及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ**

当社は、平成 30 年 3 月期第 1 四半期決算及び第 2 四半期決算において、過年度決算訂正関連費用（特別損失）を計上するとともに、平成 29 年 7 月 31 日に公表した平成 30 年 3 月期第 2 四半期連結業績予想及び通期連結業績予想を修正することといたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

株主、投資家の皆様をはじめ、関係者の皆様には多大なるご迷惑とご心配をお掛けしましたことを改めて深くお詫び申し上げます。

記

1. 過年度決算訂正関連費用（特別損失）の内容

当社は、平成 29 年 5 月 26 日付「第三者委員会の設置及び平成 29 年 3 月期決算発表の再延期並びに第 35 回定時株主総会の延期に関するお知らせ」にて公表いたしましたとおり、当社元取締役による不正行為が行われていたことが発覚したため、当社と利害関係を有しない外部の専門家から構成される第三者委員会を設置して調査を実施いたしました。調査が進行する中、他にも会計処理の適切性に疑義を生じさせる取引があることが発覚し、それに伴って、資料分析の対象や事情聴取の対象者等が拡大したことなどから、想定以上の調査期間が必要となる事態となり、相応の調査費用が発生いたしました。

また、当該第三者委員会の調査結果を踏まえ、過年度決算訂正の必要が生じたため、平成 29 年 7 月 31 日付「過年度の有価証券報告書等の訂正報告書の提出及び過年度決算短信等の一部訂正に関するお知らせ」にて公表いたしましたとおり、平成 29 年 7 月 31 日付で所要の訂正対応及び有価証券報告書の提出を実施しております。本件に伴う、会計監査人の訂正監査費用及び外部委託費用等も併せて発生いたしました。

上記の費用が発生したことにより、過年度決算訂正関連費用（特別損失）といたしまして、平成 30 年 3 月期第 1 四半期におきまして約 40 百万円、第 2 四半期におきまして約 45 百万円を計上するものであります。

2. 業績予想の修正について

(1) 平成30年3月期第2四半期 連結業績予想数値の修正
(平成29年4月1日～平成29年9月30日)

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 親会社株主に 帰属する 四半期純利益 | 1株当たり 四半期純利益 |
|-----------------------------------|--------------|------------|-------------|--------------------------|-----------------|
| 前回発表予想 (A) | 百万円 2,500 | 百万円 △40 | 百万円 △120 | 百万円 △120 | 円 銭 △13.06 |
| 今回修正予想 (B) | 2,500 | △40 | △30 | △115 | △12.51 |
| 増減額 (B - A) | 0 | 0 | 90 | 5 | |
| 増減率 (%) | 0.0 | — | — | — | |
| (ご参考)前期第2四半期実績 (平成29年3月期第2四半期) | 2,308 | △0 | △65 | △60 | △6.72 |

(2) 平成30年3月期通期 連結業績予想数値の修正
(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 親会社株主に 帰属する 当期純利益 | 1株当たり 当期純利益 |
|-------------------------|--------------|------------|-----------|-------------------------|----------------|
| 前回発表予想 (A) | 百万円 6,300 | 百万円 130 | 百万円 50 | 百万円 0 | 円 銭 0.00 |
| 今回修正予想 (B) | 6,300 | 130 | 140 | 5 | 0.54 |
| 増減額 (B - A) | 0 | 0 | 90 | 5 | |
| 増減率 (%) | 0.0 | 0.0 | 180.0 | — | |
| (ご参考)前期実績 (平成29年3月期) | 6,529 | 63 | △13 | △284 | △31.31 |

(3) 修正の理由

上記1. に記載の過年度決算訂正関連費用について、業績予想においては、営業外費用として80百万円を見込んでおりましたが、監査法人とも協議した結果、特別損失として計上することとなりました。また、当該損害に対する保険金として、営業外収益10百万円を計上することとなったため、経常利益が増加する見込みとなりました。

親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、過年度決算訂正関連費用が想定より約5百万円増加しましたが、上記のとおり営業外収益を計上いたしましたので、期初予想より増加する見込みとなりました。

※ 上記の業績予想は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。従いまして、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以 上